

(様式1)

### 令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	「誠実」「勤勉」「公正」の校訓の精神のもと、あらゆる教育活動をとおして、よりよく問題を解決する力や豊かな人間性、健やかな体などの生きる力を育むとともに、産業の担い手としての資質・能力を身に付けさせ、社会の発展に貢献できる人材を育成する。
(2) 現状と課題	今日の地域状況をふまえ、意欲ある生徒を確保し、次代を担う職業人を育成することが本校の役割と考える。そのため、特色ある取り組みや進路状況等を確実にアピールしていくこと、基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に継続して取り組むこと、キャリア教育を更に充実することが必要である。その上で、各学科の教育内容をいかにしながら、新しい理論や技術等を導入したプロジェクト学習等を積極的に推進していかなければならない。
(3) 重点目標	1 基礎・基本の習得と定着を図り、実社会で必要となる主体的に学習に取り組む態度や思考力、判断力、表現力などの能力を育成する。 2 農業や環境、地域社会に関する学習を深め、生命や自然、郷土を大切に作る心や他を思いやる心などの豊かな人間性を育成する。 3 食育や健康・安全教育への取り組みを推進し、たくましく生きるための健康や体力、安全で快適な生活を送ろうとする態度を育成する。
(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載する。

学校整理番号	30
学校名	青森県立柏木農業高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和7年12月23日(火)
学校関係者評価実施日	令和8年2月6日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 5名 (地域産業界(2)、農林行政(1)、安全教育関係(1)、保護者代表(P T A会長1))

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度		(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	学習指導の充実	(1) ICT教育を充実させ、基礎的・基本的な学習内容の重視と自己教育力の育成を図る。 (2) 計画に沿った授業を展開するとともに、個に応じた指導と評価の研究を行う。 (3) 本校入学志願者数の増加に向けた取り組みを行う。 (4) 全学年が3学科となる次年度に向け、教育課程及びランドデザインを再編成する。	・各教室にあるプロジェクターや一人一台端末を授業等で利用しつつ、個々の生徒の学びにつなげた。 ・6月に実施した各学年の情報交換会で生徒の情報を共有し授業改善につなげた。 ・高校体験入学の実施日を他校と重複しないように調整し、昨年度よりも参加者を増やすことができた。 ・教育課程の見直しを早期に着手することができた。	B	・学校評価(生徒・保護者)の評価が概ね高評価であり、評価的には満足できるのではないかと。 ・学科や教科を越えて共通する学習内容について、効果的に指導できるよう検討したい。 ・特別な配慮を要する生徒への課題の提供方法や評価について工夫し、学校全体で共有したい。 ・3学科となるに伴い、生徒数及び教員数の減少が予想され、行事を含めた教育活動全体を見直す必要もある。	
2	生徒指導の充実	(1) 基本的な生活習慣の確立、法令・校則の遵守、安全に関する指導の徹底を図る。 (2) 教師と生徒と良好な人間関係の構築を図り、生徒の悩みや問題行動を発見できるように努める。 (3) 生徒理解を深め、生徒一人一人の特徴に応じた指導の充実を図る。	・日常的に生徒を観察することでそれぞれの特性を理解し、生徒一人ひとりに合わせた指導に努めた。 ・S C、SSWとも連携し、情報を共有することで生徒の悩みや問題行動に早期に対応することができた。	B	・時と場面に応じた生活態度ができるように指導をお願いしたい。 ・学校評価における生徒の充実度において、1年生が低いことについては、学年の早いうちから様々なことに挑戦させ、経験させればどうか。	・基本的な生活習慣及び規範意識の低い生徒に対する対応については、生徒に応じたきめ細やかな指導を進めていきたい。 ・防災や交通安全に関しては、防災訓練、交通安全教室、H R活動、全校集会等を使用しながら、今後も指導を進めていきたい。 ・特別な支援が必要な生徒への指導においては、外部の力を借りることはもちろん、教員がより深い知識と実践的な指導方法等を習得できるように、外部研修の機会を増やし、また校内研修の充実にも取り組んでいきたい。

3	進路指導の充実	<p>(1) 生徒が主体的に進路選択できるように、計画的、組織的、継続的な指導に努める。</p> <p>(2) 望ましい職業観・勤労観の育成に努める。</p> <p>(3) 進学・就職情報の適切な収集・整備・提供に努める。</p>	<p>・日頃の授業や課題研究を通して、早期に進路決定できるように指導した。</p> <p>・応募前職場見学やインターンシップへの参加、進路講話で働くことの意義を伝えた。</p> <p>・これまでの本校、採用実績をもとに求人情報を提供できた。</p>	A	<p>・進路状況等が確認できた。生徒それぞれに応じた進路状況であったし、様々な進学先・就職先があり、これらも生徒個々にあった進路指導をお願いしたい。</p> <p>・進路関係において、ぜひ青森県職員へ挑戦し、合格者を出してほしい。</p>	<p>・各企業や上級学校と情報交換を密にし生徒や保護者の希望がミスマッチしないように努めたい。</p> <p>・進路について、情報提供や動機付けを促し、小論文・面接指導に早期に着手し、さらなる指導体制の充実を図っていく。</p> <p>・2学年から2学期中に本年度の求人票をみるができるよう継続する。</p>
4	農業・環境教育の充実	<p>(1) 実験・実習指導の充実と実習環境の整備に努める。</p> <p>(2) 課題研究の充実や新技術開発についての研究を推進し、情報発信する。</p> <p>(3) 生涯学習センターとしての整備環境と学校開放に努める。</p> <p>(4) 「りんご栽培に関する教育」の推進に努める。</p>	<p>・年間計画に基づいて実験実習を行うことができた。</p> <p>・平川市との植栽活動やカボチャの産地化計画、米粉専用米をもとに米粉麺を開発、100周年祝菓の製造など、地域食文化の創造や企業、公共団体と協働し、研究に取り組むことができた。</p> <p>・年間を通じて地域の保育園や教育機関など、ヒューマンサービスに関する授業や行事を中心に実施することができた。</p> <p>・昨年度に引き続き、リンゴ・コメでのGLOBALG. A. Pの取り組みや、リンゴ剪定枝を活用した燻製チップ、簡易燻製機とのコラボ商品の開発など、リンゴに特化した教育を展開できた。</p>	A	<p>・家や普通学校では、できない実習・体験ができることが農業高校のいいところである。</p> <p>・他校では、できない体験をし、先生方も熱意をもって活動している。わくわく感が子どもたちにも伝わっているのではないかと。</p> <p>・農業実習の様子など、楽しそうなところをホームページでの紹介がよい。</p>	<p>・地元の農家での作業体験（起農塾）を更に充実させ、1年生から農業への興味・関心の意識付けをおこなう。</p> <p>・地元農家や企業等と連携して各学科の特色を生かした研究活動や地域支援活動等を行ったり、海外研修を実施するなど、キャリア教育やグローバル教育の推進につなげたい。</p> <p>・販売実習における接客の経験はキャリア教育の観点からも意義があるため、さまざまな場所で販売実習を計画し、より多くの地域の方に販売実習を周知する方策として広報活動を強化したい。</p>

(11) 総括	<p>本校の抱える学校課題を一つずつ解決していきながら、特色ある教育活動内容を常に検証していく。また、これまで地域に信頼されてきた本校のさらなる発展となるよう進めていく。進学及び就職のそれぞれを希望する生徒の進路志望達成のみならず、一人ひとりの生徒が社会人として生きていけるための支援を積極的に行っていく。</p>
---------	---